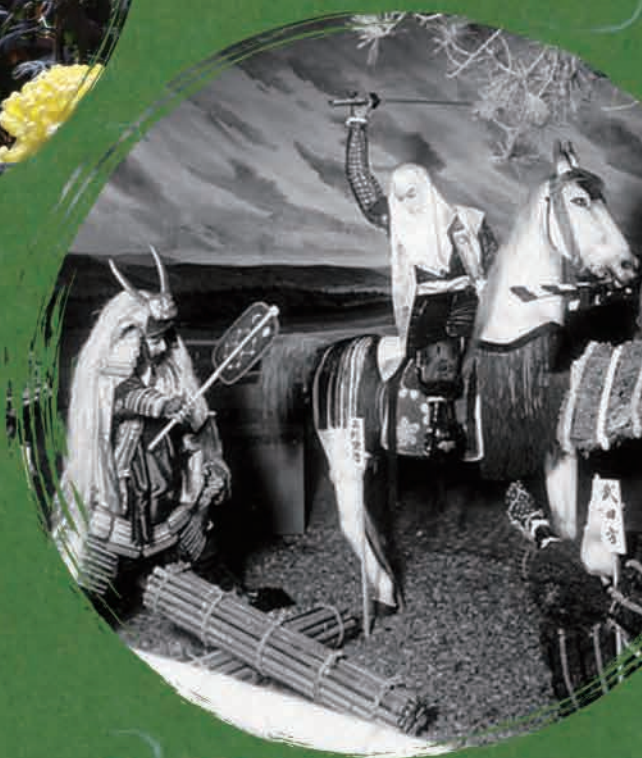
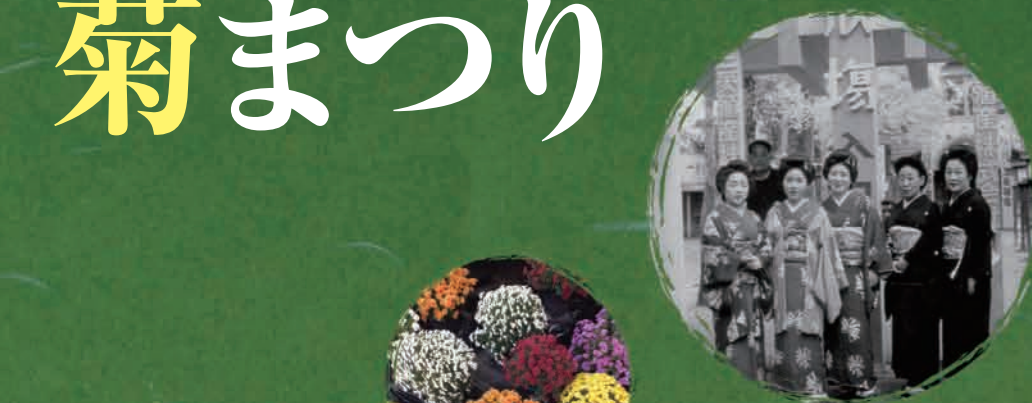


第110回 笠間の 菊まつり

笠間稲荷神社◎社報 胡桃

く る み

平成29年
深緑



ごあいさつ

四季を通して全国の各地で執り行われている日本の祭りは、私たちの暮らしにうるおいと活気をもたらしていますが、祭りの中でも春の豊作祈願祭と秋の収穫感謝祭は各地で見られ、日本人にとっては原風景とも言えるべき祭りとなっています。

わが国の古き事を記した書（『古事記』や日本の成り立ちについて書き記したもの（『日本書紀』）によれば、天照大御神が孫のニギノミコトに地上に降りてこの国（『日本』）を治め、天上界で育った稲を地上に植えて実り豊かな国づくりをするようにと命じられました。天孫降臨の神話としてよく知られていますが、現在でもそれを受け継いで、天皇陛下が自ら田植えをなされ、稲を刈られているお姿をテレビや雑誌などで拝見された方も多いのではないかと思います。

当社では五月十日に、古式ゆかしい御田植祭が斎行されました。地元の中学生たちが歌う折口信夫作詞による御田植歌の中に食^{おすく}国という言葉が出てきます。天皇のお治めになられる国という意味ですが、国民を飢えさせず、食べるのに困らないようにする国づくりは、歴代の天皇陛下の大切なお務めの一つでした。当社の御祭神である宇迦之御魂神は天照大御神の御心に添い、稲を日本の国土に根付かせて、稲魂の作用により人々にとつて命の根となる大切な稲の豊かな実りをもたらしてくれている非常に重要な御働きをなされている神様であります。

田植えをする時期はさ月と言いますし、稲の生育に欠かせない、水田に引く大切な水をもたらすこの時期に降る雨をさみだれとよび、田植えをする若い女性はさ乙女で、植える苗はさ苗と言っています。「さ」は穀霊、田の神様のことですが、庶民にとりましては宇迦之御魂神の有り難い御神徳のことを「さ」と呼んでいたのかも知れません。

日本各地の農村部には、春になると山の神が里に降りてきて田の神となり、人々の農作業を見守って秋の収穫を終えるときまた山に帰っていくという信仰があります。山は稲をもたらしたニギノミコトのように、神々が降臨する神聖な所であり、農耕に欠かせない水の源があり、苦労を重ねながら水田を切り開いていった、亡くなられた私たちの祖先の霊が赴く所とも信じられていました。昔の日本人は山を神格化して、そこにお住まいになる田の神様の力を授かり、稲の豊作を祈り、感謝をささげてきました。古くはおむすびを山の形に似せて三角に握っていたことにもそれがあらわれています。

笠間稲荷神社では年間を通して様々なお祭りを執り行っております。その一つ一つに私たち祖先の思いが込められています。皆様にもぜひご参列いただきながら、日本人としての大切な心を感じ取ってもらいたいと思います。

笠間稲荷神社 宮司 塙東男



事比羅祭・末社祭

祭事予定 八月

一日 本社御田植祭

一日 事比羅祭

一日 末社祭

六日 献燈祭

二十一日 旧大祓式

◆事比羅祭・末社祭

八月一日には、境内に鎮座する「事比羅神社」・「末社（境内神社）」の例祭が斎行されます。例祭はそれぞれの神社が鎮座された日に斎行されます。この日には日頃から各お社を崇敬されている氏子、崇敬者が集い祭典が執り行われます。



また、この祭典にはどなたでも自由にご参列頂けます。それぞれの神社が鎮座された良き日に、それぞれの神社の御神徳を頂いてみては如何でしょうか。

◆献燈祭

献燈祭は、我々の生活に欠かすことの出来ない火（灯）に感謝し、また火が災いの元とならぬよう祈願すると共に、我々の祖先の御霊を慰めるお祭りです。

当日は、境内の石燈籠や釣燈籠そして皆々様から奉納される大小様々な行燈全てに灯がともされ、夏の暑さが和らぐ夕刻の浄闇に浮かぶ灯りは風情豊かであり、境内は夜遅くまで参拝者で賑わいます。

また、行燈の奉納は随時受け付けております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

献燈料 大行燈…一万円

中行燈…五千円

小行燈…一千円



献燈祭



祭事予定 九月

二十三日 秋季皇霊祭

二十三日 小笠原流弓術奉納式

二十九日 奉納

横綱稀勢の里土俵入り

祭事予定 十月

四日 中秋祭

十七日 神嘗奉祝祭

二十一日 菊まつり開場式

二十三日 尚齒祭

二十四日 講社大祭

◆中秋祭

末社内の月読神社の祭典で、旧暦の八月十五日に斎行致します。中秋の名月を見られる日に斎行される祭典であり、中秋の名月を観賞する風俗は平安時代に伝来したと伝わります。農民の間では農耕行事と結びつけられ、収穫の感謝祭としての意味を持ちました。

祭事予定 十一月

三日 明治祭

三日 神事流鏑馬

十五日 霜月祭

十九日 舞楽祭

二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭

神事流鏑馬



◆ 神事流鏑馬

当社の神事流鏑馬は、稲荷大神様に縁の深い農作物の豊凶を占うと共に、日本の伝統文化で現存する流派である、小笠原流の古儀古術を保存する為に行われています。

当日は、弓馬術礼法小笠原教場一門をはじめ、氏子や古武道振興会の有志、地元小学生等の奉仕により執り行われます。境内での安全祈願、奉納奉告祭の後、笠間藩弓馬訓練場跡である笠間小学校前まで古式に則り列を組み進み、奉納されます。

◆ 舞楽祭

当日は境内に舞殿が設けられ、舞人が神前に舞を奉納致します。

【曲目】神 楽 「浦安の舞」

「悠久の舞」

祭祀舞 「豊栄の舞」

舞 楽 「迦陵頻」



◆ 新嘗祭・献穀献繭祭

「新嘗祭（にいなめさい）」は、宮中においてその年の新穀を神々に供えると共に、天皇陛下がその年の新穀を初めて召し上げられる祭典です。全国の各神社においても新穀を神前に供え祭祀が行われます。当社では、「献穀献繭祭」と称し、新穀、新繭が神前に供えられる他に、献穀品、献繭品の品評会が実施されております。

祭事予定 十二月

二十二日 御火焚串炎上祭
 二十三日 天長祭
 二十八日 鹿島祓
 三十一日 大祓式



御火焚串
炎上祭



鹿島祓

「鹿島祓」は、当社独特の祓具を用いて行うお祓いです。これは、現在の宮司家が鹿島神宮より当社に迎え入れられた際に、鹿島神宮の祭式を当社にもたらしたことに起源します。当日は、拝殿、楼門を始め社務所内各部屋に至るまでお祓いをします。

◆ 鹿島祓



平成二十九年

八月六日

時間／午後五時

場所／笠間稻荷神社 境内

笠間稻荷神社

献灯祭

献灯祭とは

行灯に火を灯し御霊を慰め

神恩に感謝の誠を捧げ

各家の安泰と

御祈願の成就を祈念する

お祭りです

献灯料

大行灯

一万円

中行灯

五千円

小行灯

一千円



随時受付中です。お問い合わせは社務所まで。☎0296-73-0001

秋の笠間を華やかに彩る 110年目の菊の祭典

日本最古

第110回
笠間の菊まつり

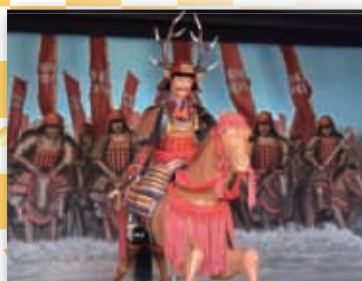
日本三大稲荷
笠間稲荷神社

大菊花展 菊人形展

菊人形展

おんな城主

直虎



平成29年 10月21日(土)

～ 11月26日(日)

8時半～16時半(入場は16時まで)

菊人形展
100円
割引券

有効期限 平成29年11月26日
※他の割引券とは併用できません

正月祈禱案内

平成三十年の新春初祈禱を受け付けております。

神社の御神札は一年の節目に新たな御神札を神棚にお祀りすることが古くからの習わしであります。

新年に向けて気持ちを改め、新たな御神札をお祀り致します。古い御神札は当社にて御焚き上げ致しております。

※楼門を正面にし、右手に納札所がございます。

◆祈禱時間

一月一日	〇時～五時
二・三日	七時～十七時
四～七日	八時～十七時
十六日以降	七時四十五分～十六時

◆祈願

- | | |
|-------|-------|
| ・五穀豊穡 | ・病氣平癒 |
| ・家内安全 | ・開運招福 |
| ・商売繁栄 | ・身体健全 |
| ・交通安全 | ・学業成就 |
| ・厄除 | ・合格祈願 |
| ・方位除 | 等 |

◆新春祈禱申込

新春初祈禱の当日受付は大変混み合いますので、インターネット、FAXでの事前予約をご利用ください。

正月前にお早めにお申し込み下さい。

FAX ▼ 0296-73-0002

◎ ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索



お知らせ

正月期間中は、当社参集殿前駐車場は使用出来ません。
駐車場の詳細はホームページをご覧ください。

笠間稲荷神社日誌



平成二十九年

赤字：祭典
青字：結婚式
緑字：行事
黒字：講中参拝・正式参拝

◆一月

- 一日 歳旦祭
茨城日産自動車(株)
八千代講・高梨講
藤井講・赤坂講
- 三日 元始祭
小松稲荷講
(株)サンライフコーポレーション
- 四日 新始祭
- 五日 根崎解体工事(株)
明誠講・野尻笠間講
東芝ライテック(株)
鹿沼工場
海上芋苗組合
- 六日 JR水戸鉄道サービス(株)
昭和天皇祭遥拝式
- 七日 穂波会・(株)横山喜惣治商店
堀川観光・東毛敬神講
- 八日 下野小山須賀笠間稲荷講
- 九日 初事比羅祭
- 十日 笹本笠間稲荷講
- 十一日 ALSOK茨城(株)



- 十二日 笠間ロータリークラブ 会長坂倉弘國様
- 十四日 尖閣諸島安全祈願祭
野田市信栄講

- 十五日 古札炎上祭
水戸好文ロータリークラブ
会長藤澤利枝様

- (有)秋田土木・石井工業信友会
嶋田商会・キャラエーピー(株)
那珂湊笠間稲荷神社初詣の会
会長中曾根美恵子様

- 十六日 幸手講
- 二十日 神宮大麻暦頒布終了奉告祭
御本殿豊奉納奉告祭

- 二十二日 柏崎講・那須塩原市商工会高林支部
- 二十三日 東宝上町講
- 二十五日 初天神祭

- 井沼方講
- 二十六日 防災訓練
- 二十七日 旧大祓式
- 笠間稲荷門前講

- 二十八日 旧歳旦祭

- 麻生笠間講・正徳講・(株)ナテック
笠間稲荷神社敬神婦人会 会長塙菊枝様
栗原史恵様



◆二月

- 二十九日 下三ヶ尾笠間講
- 三十日 山高野講

- 三日 節分追儺式

- 相川七瀬様

- 東関大五郎様

- 振分精彦様

- 撒豆行事司奉仕

- 笠間友部街商組合

- 石の葉講・都賀町講

- 四日 船形観光友の会・大山笠間講・房地組合

- 五日 登度神社・原町講 宮司星次百太郎様
代表本木信夫様

- 弥栄講

- 初甲子祭

- 北方領土返還祈願祭

- 七日 野内組稲荷講・堀の内組

- 針供養祭

- 八日

- 九日 サカイ会祈願会

- 十一日 紀元祭

- 太木講



十二日 初午大祭

栃木笠間会・野田市蕃昌笠間稲荷講
鶴ヶ丸講・並木町笠間講・下古山講

川上実行組合・取手市機械工業会

旭市奉賛会網戸中宿稲荷講

十三日 船形笠間稲荷講

十四日 祈年祭・初穂講大祭

十九日 中峰笠間講

二十日 中野台笠間講

二十二日 野田七親講

二十四日 豊田稲荷講

二十五日 結婚式 田所家・野溝家

平成三年度笠間中学校第四十五回卒業生

森ノ根稲荷講

二十六日 元町笠間稲荷講・下落合笠間稲荷講

二十七日 兵庫県神社庁 参事大部昭彦様

二十八日 大相模笠間講

◆三月

二日 当社責任役員会・総代会

四日 五色百人一首茨城大会 代表桑原和彦様

五日 笠間稲荷高柳講・川口商栄講

八日 旧初午大祭

向町笠間講・阿字ヶ浦講

阿字ヶ浦西久保稲荷講・心和講

十二日 絵馬祭

絵馬コンクール表彰式

十六日 護王神社 宮司大室隆紀様

十七日 柳沢胡桃下稲荷講

十八日 義正会

二十日 春季皇霊祭遥拜式

二十五日 榎加藤物流

二十六日 幸栄親睦会

三十一日 新入職員入社式

◆四月

一日 新入職員入社奉告祭

三日 神武天皇祭遥拜式

六日 笠間市倫理法人会
会長本間令子様

七日 甲子祭

九日 例大祭

東京笠間講

東京丸佐講

秩父親和講

明治神宮崇敬会飯能支部婦人部

十八日 婦人部長 沢辺早苗

二十二日 東京月島笠間稲荷講

二十三日 東京紋三郎講

二十九日 昭和祭

東京笠間報恩講

◆五月

一日 結婚式 秦家・水野家

十日 御田植祭奉告祭

御田植祭

十六日 本宮祭



十七日 本宮祭

十八日 本宮祭

二十日 東京胡桃講

二十一日 小鹿野笠間講

二十八日 植樹祭奉告祭

二十八日 桜森稲荷神社氏子平桜会
責任役員小杉裕治様

◆六月

三日 春日大社 宮司花山院弘匡様

四日 東京あづま講

長江建材工業㈱

六日 甲子祭

エチオピア駐日全権大使

チャウ・ウガラ・ウリヤトウ様

大使夫人

ヘイマノット・ゼリフン・ウォルク様

十日 結婚式 飯村家・鈴木家

結婚式 平沢家・星家

十一日 初雁興業㈱

結婚式 村田家・山内家

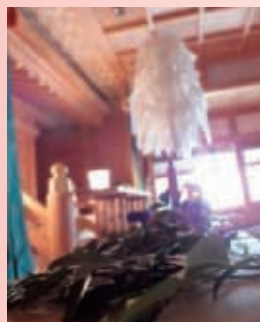
二十六日 車の茅の輪くぐり

三十日 大祓式



日本の心を大切に、思い出に残る神前結婚式

笠間稲荷神社の御祭神・宇迦之御魂神は、生命の根源を掌る「いのち」の根の神様でございます。神前結婚式は、代々受け継がれてきた「いのち」を、これより後もつないでいく約束をする、新郎新婦お二人の人生の大切な節目です。



稲荷大神様の御加護の下、ご両家の絆を固く結び、
お二人の末永いお幸せを心よりお祈り申し上げます



- 初穂料：亀式5万円(雅楽生演奏1名)、鶴式10万円(雅楽生演奏3名、巫女舞あり)
挙式場：社務所内・儀式殿(見学可)、拝殿挙式は斎行致していません。
設備：披露宴・パーティー会場は併設していません。控え室ご両家各1室、更衣室1室使用可。
撮影：境内撮影自由、挙式中の撮影は一部制限があります。撮影用の椅子等の貸出は不可。
衣装等：和装・洋装の決まりはありません。衣装はご自身でご用意下さい。
参列者：基本的に親族のみ可、新郎新婦含む30名以内は規定初穂料にて斎行、31名以上は1名毎500円増。
挙式参列可能人数は両家各18名まで、直会は60名程度まで対応可。いずれも要相談。
挙式時間：亀式1時間、鶴式1時間15分程度。祭典日を除き9時～15時の間の希望時間より斎行可。

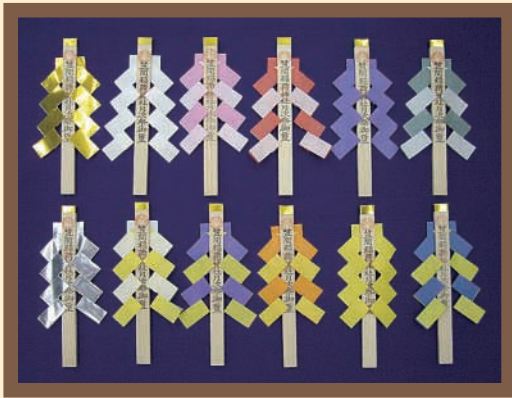
<お問い合わせ> 笠間稲荷神社社務所 崇敬係(すうけいかり)
☎0296(73)0001 9:00～16:00

結婚式のお申し込み・式場のご見学・ご相談等でご来社の際は、前日までにご連絡下さい。
祭事等の都合によりご案内致しかねる場合がございますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

笠間稲荷神社 ご案内

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな御神徳を頂くことであります。月詣りの方には季節の花の色を表した御幣を授与しており、す。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



祈禱案内 七五三詣り

この行事は、古く子供が成長する過程で行われていた髪置(かみおき)・袴着(はかまぎ)・帯解(おびとき)といった通過儀礼が起源となっており、お子様が今まで無事に過ぎしてきたことへの感謝と、今後とも健やかに成長する事をご家族皆様でご祈念下さい。インターネットでのご予約もお受け致しております。

◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索



奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。

ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談下さい。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



御祈禱

当社において随時行っている御祈禱についてご案内致します

「祈禱」とは、お賽銭を入れて拝礼する略式参拝に対して、社殿に上がり祈願することを行います。その内容は、子授けや安産祈願、初宮詣、七五三などの人生儀礼、節分のときの厄除祈願などの年中行事等、多種多様にあります。当社では、各種ご祈禱・ご祈願を随時承っております。

開始時間

御祈禱は次の時間に執行いたします。

- ① 午前八時
- ② 午前九時
- ③ 午前十時
- ④ 午前十一時
- ⑤ 正午
- ⑥ 午後一時
- ⑦ 午後二時
- ⑧ 午後三時
- ⑨ 午後四時

※お正月、節分、初午、例大祭など
祭礼時は右記と異なる場合があります。



御祈禱の流れ

御祈禱受付所にて所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、窓口へお出ください。

お申込受付後、御祈禱を受けられるまで控え室でお待ちください。

時間が近づきましたら、係の者が案内に参ります。

拝殿へご昇殿していただき、御祈禱を執り行います。

直会処にて御神礼をお受け下さい。

※御祈禱予定時間の十分前には、必ず御祈禱控え室にお集りください。





本社祈祷式規定

一、個人祈祷

五千円、七千円、一万円、二万円以上

一、特別祈祷

太々御神楽納金 十万円

二十名までを一座とします。

但し、一名増す毎に納金は五千円増。

大祈祷納金 五万円

二十名までを一座とします。

但し、一名増す毎に納金は二千五百円増。

太々御神楽奉奏・大祈祷式を執行せられる時は、

日時を定め一週間以前にお申し込み下さい。

一、講中(団体)祈祷

十二名以上を以て組織し、

一人当り 鶴式：二千円・亀式：一千五百円。

一、御分霊授与初穂料

五万円以上

一、結婚式規定

鶴式納金：十万円・亀式納金：五万円

※祈祷時間：午前八時～午後四時

毎時間に昇殿祈祷。

◎ご不明な点は、社務所までお問い合わせください。

【電話】0296-73-0001

◎当日ご来社してからお申し込みいただけますが、
FAX・インターネットでのご予約も承っております。
ご予約は遅くとも二日前までにお願ひ致します。

【FAX】0296-73-0002

【ホームページ】<http://www.kasama.or.jp/>



神楽舞奉奏

・初穂料三万円以上お納めいただいた方には、ご希望により浦安の舞を御奉奏致します。

『浦安の舞』

浦安の舞は昭和天皇の御製で、昭和十五年、紀元二六〇〇年を奉祝致しまして、元宮内庁楽部楽長多忠朝が謹作、振付したものです。



撤下品一覧

・初穂料五千元：掛軸(小)、大神供

・初穂料七千元：掛軸(小)、御神酒、太々神供

・初穂料一万元：とろろ昆布、するめ、掛軸(大)、御神酒、太々神供、祝詞

太々神供、祝詞

・初穂料二万円：わかめ、とろろ昆布、するめ、掛軸(大)、御神酒、太々神供、祝詞

御神酒、太々神供、祝詞

・初穂料三万円：わかめ、とろろ昆布、するめ、掛軸(大)、御神酒、太々神供、祝詞

御神酒、太々神供、祝詞

・初穂料五万円以上：わかめ、とろろ昆布、するめ(二枚)、掛軸(大)、御神酒、太々神供、祝詞

掛軸(大)、御神酒、太々神供、祝詞

・講中(金記)：掛軸(小)、大神供

・講中(鶴式)：掛軸(小)、大神供

・講中(亀式)：大神供、御神影

・太々御神楽：大神供

・大祈祷：掛軸(小)、大神供



神社のいろは

Q 神棚のまつり方を教えてください。

A 神棚は家の清浄なところに、南又は東向きに設け神宮大麻を始め、氏神さまや崇敬する神社の御神札を、毎年正月に新しく受けておまつりして下さい。

神棚はいつも清らかにしておき、月末にはお掃除にここを込め、年末には特にいいねいにして、改まる月、新しき年をお迎えください。



Q 御神札はどのようにまつれば良いですか？

A 横に並べてまつる時は、中央に神宮大麻、向かって右に氏神社、左に崇敬社の御札を奉安し、一つに重ねてまつる際は表に神宮大麻その次に氏神社、その又次に崇敬社の御札をおまつり下さい。

Q お供えものは何が良いですか？

A 日々の供物は米と塩と水の三つを、特別な日にはこのほかに酒、乾物、野菜、果物等旬のものや初ものなどをお供えしてください。お供えしたものはご家族で召しあがり神さまの御神徳を授かりましょう。

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所

☎0296(73)0001



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.39 平成29年6月発行
発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001(代) FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003
ホームページ<http://www.kasama.or.jp/> Eメールinfo@kasama.or.jp
編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。

Twitter



Facebook

